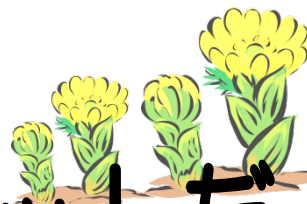


3月号 農山村ネットだより



発行元
とよた都市農山村交流ネットワーク
代表 山本 薫久
豊田市杉本町三斗成 1-3
旧杉本保育園を活用する会農山村交流・中
継センター
tel・fax 0565-68-1113

拡大幹事会・学習会

問題をかかえる 今の子どもたち

講師 元古瀬間小学校校長 近藤憲司 氏



ー昨年、セカンドスクールに来ていただいた元古瀬間小学校校長の近藤憲司氏。農山村体験こそが今の子どもたちに必要だという信念をもってセカンドスクールに参加され、子どもたちへの愛情のこもった「まなざし」や「ふれあい」はとても印象に残っています。そして、受入側の私たちへも温かい励ましと助言をあたえていただきました。

昨年定年退職後は、愛知県公立学校スクールカウンセラー（臨床心理士）として活躍されています。

アスペルガーや高機能自閉症、様々な心理的肉体的な問題…。私たちが現代の子どもたちに接する中で、とまどい悩む様々な問題について助言をいただきたいと思います。

スケジュール

午後6:00 来年度の取り組みのについて

く

午後6:30 講演

く

午後8:00

とき **3月28日(月)**
午後6時～午後8時ごろまで

場所 **農山村交流・中継センター
(旧 杉本保育園)**
豊田市杉本町三斗成1-3
Tel 0565-68-1113

(幹事さんはもちろん、
多くの会員のみなさまの参加を期待しております。)



小原地区

中山間地の活性化の為に・・・

(株)愛農流通センター23年度のスタート。2月13日に「キックオフ」がありました。愛農の消費者会員3組と、名古屋市や豊田市から3名の参加者がありました。

NPO 法人矢作川自給村稲穂の里は14目を迎えます。NPOになって6年目になり、自給村の目的がはっきりしてきました。

- ・有機農業を教える場である。
- (子供達にも農業を教えながら、自然を体験教育させる。)
- ・自給村で育った会員さんがMy 田んぼ制度で、自分の田を持って中山間部の農地を守る事。
- (今年もMy 田んぼ管理者が1名できました。)
- ・中山間部の農地を守る仲間を増やして行く事。

自給村では、2月26・27日にみそ作り。3月13日にはシイタケの菌打ちイベントを行います。

野草摘み、田植えイベントなども計画しております。このイベントに愛農のお客様の参加を呼び掛けて、準自給村会員として愛農の取組みを広げて行きます。

中山間地の活性化の為に、各自それぞれの取組みから、何かヒントをつかみたいものです。

(株)愛農流通センター 池野 雅道



旭地区

GENKIの森

豊田市東萩平町では地元の「お須原山愛好会」と市内の「住友ゴム工業(株)」とが連携して「お須原山」という里山の整備を行っています。

東萩平町のある敷島自治区では、自治区の総合計画である「しきしまときめきプラン」を昨年3月に策定しました。この中の「プランの推進に向けて」の中に

「都市住民や専門家に頼ろう」とあります。これは山里を応援してくれる全ての人の力を借りることが目標達成の近道だということです。

つまり、自分たちだけの力の限界を知り、力を借りることで都市の方たちに地域を知ってもらうこともできるのです。

里山の整備は平成17年から始め、紅葉や桜など2,600本ほどの広葉樹や歩道などを整備してきました。しかし近年は下刈りなどの管理に困っていたところ、昨年4月からこの里山を社内緑化推進活動の

「GENKIの森」として管理していただくことになり、毎月数十人の方たちが下刈りや植樹に汗を流しています。

3月19日には愛好会や住友ゴム(株)のみなさん、それに日本再発進プロジェクト、交流ネットの有志の協力を得て共同作業を行います。



交流市民の会

今年もやります「山里学校」！！

好評をいただいている山里学校。今年も楽しくやりたいと現在準備中です。昨年までに、たくさんの方が参加いただきました。リピート率が大変高くなっています。「休みがとれたら必ず参加しています」「出たい内容の時に休みが取れなくて残念」などの声を多くいただいています。

そこで今相談しているのが、参加者の中で、スタッフボランティアをお願いできないかということです。いろいろ経験していただき農山村を理解いただきたいのです。まだ、詳しいやり方は決まっていませんが、理解者、協力者を増やしていくのは、農山村ネットワークとしても大切なことと考え、新年度の大きな方針の一つです。 といっても難しいことをやるわけではありません。

いままで以上に学校を楽しんでいただけたらよいのでは・・・どうか新年度もよろしくお願いします。



下山地区

2月20日(日)

香恋の里は冬も元気だ！2011

“食”をテーマにしたこのイベント。回を重ねる度に、楽しさと内容を考える悩みが増します。

“食”に関わりを持つ施設として、子どもから大人まで体験を通して「こうやって作るんだ」「おいしかった」「また来たい」と思ってもらえるようなことができないだろうか、毎回同じ体験ではつまらない、と思いつつ、どうしてもやれることが限られてしまいます。郷土料理は保存性のよい物が多いけれど、時期が限られてしまい、冬場は食材の入手が難しい。外は寒しし暖をとることも考えなくちゃ。天候も心配だし、地元ボランティアの人数も…。

そして迎えた当日。これ以上望めないような好天に恵まれました！

体験メニューはスタッフの提案で、山遊里の10周年にちなんで今まで行なった体験メニューをすべてやることに決めました。竹筒ごはん、まきまき米パン、米粉のパウムクーヘン、昔ながらのおかし“ぼろ”炒り、ミニ五平餅作りと、すべて100円の大サービスです。

屋内では、下山地区コミュニティ会議主催の「しもやま親子食育教室」が同時開催され、子どもの大好きな「くるくるソーセージ」や高田家のみどり米を使っ

た「あんころ餅」を作ったり、親子で料理を楽しんでいました。

準備の段階でいろいろ心配したのも何のその。体験に参加した人は延べ400名にのぼり、この時期としては過去最高の賑わいとなりました。

ステージでは、地元の小学生による「子ども三河万歳」に、たくさんのおひねりが飛び交いました。また豊田市食育キャラクター「たべまる」が登場すると、子どもたちは大喜び。いのししハムのふるまいには長い列ができるなど、イベントは大成功！



運営に協力してくださった羽布地区の方々、三河湖共栄会、日近太鼓、下山支所、豊田市食育推進会議、ヘルスサポートリーダー、そして日頃から山遊里を応援して下さっているみなさま、本当にありがとうございました。また来年も…

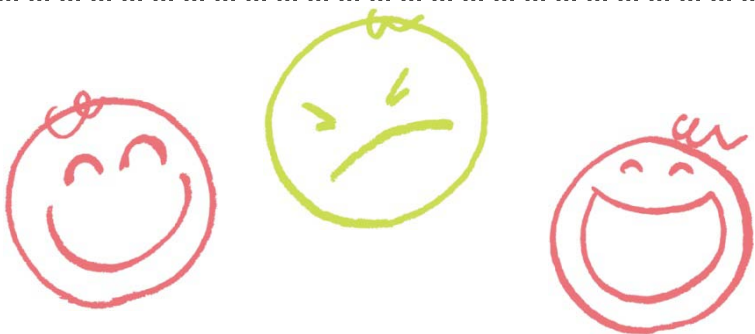
稲武地区

旧暦で飾るお雛様

3月20日(日)から4月17日(日)まで、稲武の町では、旧暦で飾るお雛様イベントが行われます。寒い稲武では、新暦の3月3日では、まだ飾る花もなく、ずっと旧暦(今年は4月5日)でひな祭りを祝ってきた伝統があります。メイン会場はどんぐり工房で、その他、古橋懐古館や商店街でいろいろなお雛様に出会えます。どんぐり工房では土雛の絵付け体験なども行われ、4月の10日過ぎにはしだれ桜も見頃になる予定。ぜひお出かけください。



前号でお知らせした山里C y a feの「麴から作る2泊3日の味噌作り体験(2月11日~13日)」、無事終わりました。味噌作りの他に豆腐、こんにゃく、キムチを作ったり、餅付き、ニワトリを絞める、氷瀧見学など盛り沢山で個性豊かな8名の参加者の方々と大いに盛り上がりました。さて、味噌の出来は…



ネットワーク会員募集中!!

体験の受入をしていただける方、お手伝いをしていただける方などを募集しています。

都市部の方でもOKです。

みんなでいっしょに楽しみましょう!!

足助地区

足助地域会活動状況



12月10日冷田小学校5年生の要望で「生き生き学習」の一環として、自然と向き合った学びがしたいとの児童の自発的な学習サポートを指導スタッフ2名と共に行った。

竹炭をやいてピオトープの池の水の浄化に取り組んで行くという内容。まず、児童8名がドラム缶窯2基に竹材を投入、点火。煙が出てきたのと相まって大きな拍手が上がり、目の輝きが変わってきた。12月17日炭出しをした。炭をやく時に一緒に入れておいた観賞用炭（かぼちゃ、みかん、バナナなど）を見て大歓声。

2月4日竹炭を網袋に入れ、ピオトープの池の中に10ヶ所に吊るすと共に、大きな桶に竹炭を細かくして川砂と交互に

3段に入れ、池の赤く汚れた水を濾過。きれいな水になり、大拍手！

2月17日公開授業で成果発表をし、好評を得た。

山村に住む子供たちが自然との共生の中で味わえなかったことを再発見した様子にサポートした喜びを味わった。

都市の子供たちに自然の素晴らしさを納得させることも大切だが、地元の子供達にも気付かせることが大切であると思う。

今後の予定

●「望年度会」3月15日（火）足助ユースにて

午後6時打合せ会6時半開会 実費

申込 山本090-5453-6411

14日（月）午前中まで



●23年度総会の案内

4月20日（水）午後6時30分より 足助交流館3階大会議室にて

今年度は2校のセカンドスクール、トヨタ自動車労組農業体験（田んぼ）など交流事業、会員研修会の開催、2度にわたる研修視察、山里学校、田舎暮らし案内・「交流居住」の連続講演会、「農山村へのシフト」シンポなど様々な取り組みを成功させてきました。来年度も、みなさんの活躍とご協力と、農山村の活性化と、農山村を基軸とした持続可能な豊田市をめざして都市農山村「交流居住」を展開したいと思っております。ご意見ご要望を幹事、幹事会へ。

●「旭木の駅プロジェクト」始動 3月5日（土）旭築羽地区にて

いよいよ「旭木の駅プロジェクト」が始まりました。農山村ネット幹事さんも出荷者登録をしていらっしゃる方がいます。大儲けできないけれど、関わった人がちょっとだけ幸せになれるプロジェクトです。「旧杉本保育園を活用する会」と「スローライフセンター」が主催です。一週間足らずで、目標の3分の1近くを出荷してしまい、事務局は嬉しい悲鳴を上げています。旭地区の山で眠っていたC材（市場へ出せない半端材）が、地域通貨（モリ券）となって旭地区の登録商店限定で使えます。しかも、モリ券は期限付き（5月8日まで）。

「木の駅」が始まってから、旭地区のあちこちでチェーンソーの音が響き、道路脇に出された間伐材が目につきます。このプロジェクトの主役は、自伐できる山主さん、地元の商店さんです。事務所（旧杉本保育園）にモリ券を取りに来る出荷者の人たちはみな、笑顔で帰っていきます。「この券で孫にお菓子でも買っていく」と、ニコリ。小さな幸せがそこにありました。

